

## スギザイノタマバエの地理的分布

—1978年3～10月調査—

林業試験場九州支場	吉田成章・倉永善太郎
熊本営林局造林課	男成福美
福岡県林業試験場	大長光純・中島康博
佐賀県林業試験場	竹下晴彦
長崎県総合農林試験場	宮崎徹
大分県林業試験場	高橋和博
熊本県林業研究指導所	久保園正昭・滝下国利
宮崎県林業試験場	讚井孝義
鹿児島県林業試験場	谷口明

スギザイノタマバエは1953年に宮崎県西諸県郡加久藤村で発見されたが、このときはすでに侵入してから数年たっており、Stainの調査から1947年には分布していたことが知られている<sup>1)</sup>。このように本害虫は伐倒時にその存在が明らかになる場合が多く、ほとんどの場合その正確な侵入時期は不明であった。そこで本害虫の分布の現状を知り、今後の分布と被害の拡大をみる手がかりとして、九州全域での分布調査を行った。

林試九州支場と熊本営林局は主に国有林を、県立林試は主に公有林と民有林を対象とした。調査点数は労力の関係もあって各地域必ずしも均等ではない。またばらつきはスギの分布にも関係している。調査地点は著者ら自身、国有林では担当区の直接調査によって確められたものであり、他からの聞づて等によるものではない。

調査方法は、適当な間隔の林分ごとに2～5本の立木の粗皮部を一部はぎ、これに幼虫が存在するか否かによった。国有林では10haに3本の割合でFleckが存在するか否かを調査し、被害の程度も調査しているが、今回の報告では存在の有無にとどめた。地図上では重複するものが多くあり、調査点数は2908点であるが、図での点数はこれより少なくなっている。

一部で天敵の調査を行った。捕食性のミッフシハマダラタヤバエ *Lestodiplosis trifaria* Yukawa et Sanui<sup>2)</sup> は最北部の大分県前津江村にまでみられるが、寄生蜂 *Synopeas* sp. は菊池深葉国有林で成虫1頭、人吉鶴国有林、白浜国有林で幼虫1頭ずつがみつ

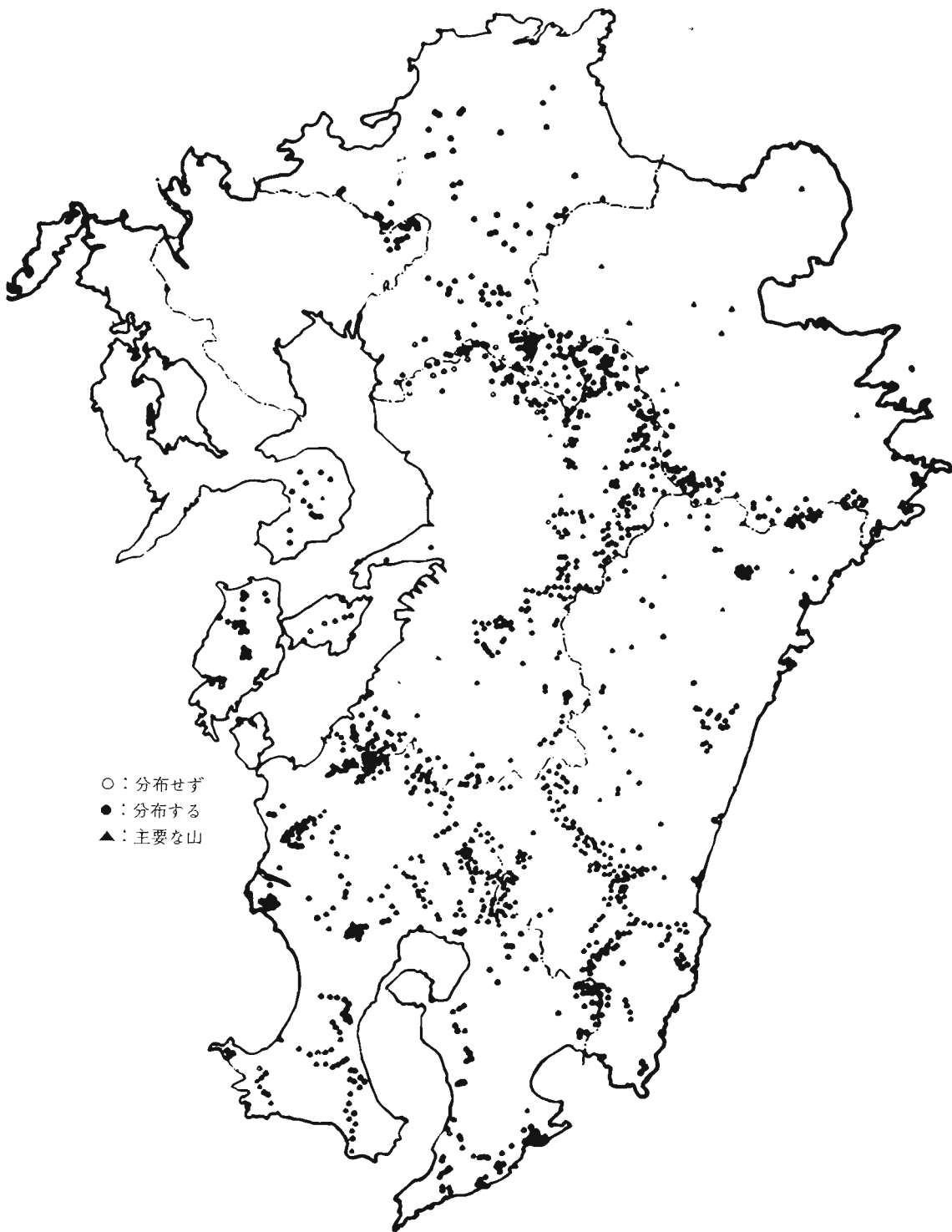
かっただけで極めて少なく、主にえびの地方に多く分布しているものと思われる。天敵の分布の詳細な調査は多大の労力が必要なことから、広い範囲での調査は困難であるため、今後は主要な地点での調査を行う予定である。

地図でわかるように、現在南九州のほとんどの林分に分布しているが、北限は熊本県北西部、福岡県境、大分県南部に位置している。その拡大状況は九州山脈を中心に北上し、東西に分散したものと考えられ、主に成虫の飛散により分布を拡げたものと思われる。しかし、現在皮つき丸太の移動が行われているようであるため、今後飛火的に無被害地へ拡がるのが憂慮される。

今後は主に北限の上昇が問題となるので、数年おきにこの種の調査を行う予定としている。また1956年の分布報告<sup>1)</sup>以後、拡大の状態ははっきりしていない。このため過去の分布拡大の経過を知る必要がある。過去の分布の調査には材内に残ったStainにより本害虫の存在の有無を知ることができることから、40～50年生スギの伐採地で年輪に現われるStainの調査を行うことにしている。

## 引用文献

- (1)小田・徳重・倉永・岩崎：林試熊本支場保護部業務報告会資料2，1956
- (2) Yukawa, J. and T. Sanui: Appl. Ent. Zool. 13(4): 243-249 (1978)



スギザイノタマバエの分布